

げんき 通信

地域まげんき学校

宮城

第3号 2010.1.11

編集/発行 まちづくりNPOげんき宮城研究所

【杜の伝言板 ゆるる 2009年12月号】

このページは、宮城県からのNPO関連のお知らせです。

新しい仲間  **事務ブースに3団体が入居しました。**

みやぎNPOプラザ


まちづくりNPOげんき宮城研究所

「安心・安全なまちづくり」のために、防災に関する知識の普及、防災意識の啓蒙が活動の中心です。地域のコミュニティが失われていく中で、昔から語り継がれる災害の恐ろしさを伝える防災の「教材」として、DVD版「稲むらの火」を制作しました。

また、「異文化理解」と「世代間交流」にも取り組み、「小泉八雲を読む会」を開催して小泉文学の素晴らしさを紹介しています。

事務局長の門間光紀さんは、プラザを団体の交流の場として、また来客の応対や打合せの場として大いに活用していきます。もっとNPO同士が気軽に交流できるような場にしたいですね」と話しました。

▲門間さん



事務ブース小4



みやぎNPOプラザ町内会

- NPO法人みやぎ災害救援ボランティアセンター
- 仙台シニアネットクラブ
- NPO法人奥州街道会議
- 仙台Iソントクラブ
- アクティブルーム☆伊達っ子委員会
- 仙台生ごみリサイクルネットワーク
- NPO法人移動サービスネットワークみやぎ
- パソコン要約筆記「文字の都仙台」
- 発達支援ひろがりネット
- まちづくりNPOげんき宮城研究所
- NPO法人グループゆう(レストラン ポポ)

〒983-0851 宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
 TEL: 022-256-0505 FAX: 022-256-0533
 E-mail: npo@miyagi-npo.gr.jp



「心」を取り戻して

主催：まちづくりNPOげんき宮城研究所
共催：みちのく八雲会

桜がはらはらと風に舞う四月十八日(土)、多賀城市市民活動サポートセンターにて「へるんサロン」多賀城『小泉八雲を読む会』が開催されました。「へるんサロン」の「へるん」とは、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の愛称ヘルンを意味しています。主催したのは、防災普及や地域の文化等を再認識する活動を行っている「まちづくりNPOげんき宮城研究所」(代表：西城雄生)で、八雲の文学に親しむ「みちのく八雲会」(代表：門間光紀)が共催しています。

この二つの団体は、一九九〇年に小泉八雲のひ孫である小泉凡氏を文化講演会の講師として招いたことをきっかけとし、小泉八雲の素晴らしさに触れたまちづくりNPOげんき宮城研究所のメンバーが「みちのく八雲会」を結成しました。昨年四月から『小泉八雲を読む会』を共同で開催しています。

活動当初から変わらない想い、それは小泉八雲の著書から読み取ることが出来る、「そこで生きる者たちの生活の中にあつた他者へのやさしさ。思いやり、その「心」を活動を通じて伝えていくことです。「かそけき者弱者達の声音に耳を傾け続けた八雲の姿勢、その『人を思いやる心』というのは現在では失われつつあります。

その心を取り戻しにいきましょう。」と研究所の事務局長であり、みちのく八雲会の代表でもある門間光紀さんは話します。

今年度は、日本各地の八雲会との交流を図りながら、『小泉八雲を読む会』を県内四ヶ所で開催し、各地で八雲を広める活動を行っていきます。また、十月には小泉凡氏を招く文化講演会を開催する予定です。

教育紙芝居「稲むらの火」



▼紙芝居上演中

い範囲で津波が観測されました。この津波の高さは最高で三〇メートル

読む会で紹介される八雲の作品は様々ですが、今年度団体が力を入れていくのが稲むらの火」という物語です。一八五四年(安政元年)に南海地震というマグニチュード八・四の大地震が発生し、広

を超えるものであったという記録が残されています。

「稲むらの火」は、この津波に襲われた紀州和歌山藩広村現和歌山県有田郡広川町で津波から村人を守り、被害を受けた村の再建に尽力を注いだ五兵衛という実在の人物の物語です。五兵衛は、当時命をつなぐ大切なものであった刈りいれたばかりの稲むら(稲束を積み重ねたもの)に火をつけ、村人を津波から逃げるように誘導しました。更に私財をなげうって高さ五メートル、長さ六五〇メートルあまりの堤防の建設をしたのです。その堤防は後に起こる津波の被害から村を守りました。

DVDで防災意識の普及

「稲むらの火」は、昭和十二年から二〇年間の間、小学校の国語の教科書に掲載され、紙芝居にもなり、防災の教材として活用されてきましたが、その後日本では取り上げられなくなっていました。しかし、二〇〇四年のスマトラ島沖地震発生以来、「tsunami」を英語として定着させ、ハケ国語に翻訳されたこの物語は、再び注目を集め、海外からの評価も高くなっています。

「幼い頃から防災意識を身につけることは大切なこと。『稲むらの火』の紙芝居はそれを身につけるためにうってつけの教材です。災害はなくすことはできないけど、備えることができます。その一端を担っていきたいですね。」と門間さん。

今年、研究所は八雲会の協力を得て、昭和十七年版の教育紙芝居「稲むらの火

の複製版をDVD化する予定です。DVDは県内の小学校、社会福祉協会などに無料で配布される予定です。かそけき者たちの声音に耳を傾け続けた小泉八雲。その心はしっかりと受け継がれています。そして、その心を現代に取り戻すべく二団体の活動は動き始めています。

■今後のへるんサロン開催予定

※各地二カ月毎の開催。これ以降の開催日は左記連絡先までお問合せ下さい。

開催地	会場	開催日	開始時間
石巻市	あとりえDaDa (石巻市八幡町2-2-13)	5月13日(水)	各回 13:30~
		7月8日(水)	
仙台市	みやぎNPOプラザ (宮城野区榴ヶ岡5)	5月23日(土)	各回 14:00~
		7月25日(土)	
多賀城市	市民活動 サポートセンター (多賀城市中央2-25-3)	6月20日(土)	各回 14:00~
		8月15日(土)	
気仙沼市	鹿折公民館 (気仙沼市錦町2-5-10)	6月27日(土)	各回 13:30~
		8月22日(土)	

〈連絡先〉

まちづくりNPOげんき宮城研究所
仙台市宮城野区榴ヶ岡五 みやぎ
NPOプラザレターケースNO.七
TEL:〇九〇一七五二六七八二六(内線)

【2009年活動報告】

独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業

①DVD教育紙芝居「稲むらの火」制作 完成納品(6/2~3)



(左)宮城県教育庁
スポーツ健康課
県内小学校配布協力

(右)宮城県社会福祉協議会
みやぎボランティア総合センター
市町村社協配布協力

気仙沼市(11/29)

②研修会「情報からはじまる防災・減災行動」 多賀城市(7/26)



平成21年度地域づくり団体等活動支援事業(講師派遣等)助成事業
DVD教育紙芝居「稲むらの火」制作完成記念 文化講演会
演題:「小泉八雲から現代を考える～防災・共生・五感力」
講師:小泉 凡氏(八雲ひ孫、島根県立大学短期大学部 教授 民俗学専攻)



講演会



みちのく八雲会交流会



げんき宮城&みちのく八雲会 自主事業

小泉八雲を読む会～へるんサロン～



多賀城市(ゆるる取材)



石巻市(DVD鑑賞)



気仙沼市(K-NET放映済)



仙台市(松江市/八雲会取材)

いきいきネット講演会:NPO法人でんでん宮城いきいきネットワーク みやぎNPOプラザまつり2009



9町村社協ボランティア研修会



(パソコン要約筆記文字の都仙台)

宮城県障害者相談員研修会



こらぼ

このページでは、みやぎボランティア総合センターが、様々な情報・活動を紹介いたします。

防災活動を様々な視点でチャレンジ!

～今までの防災活動からさらに一步踏み出してみませんか?～

1月15日から21日は「防災とボランティア週間」です。皆さんご存知ですか? 迫り来る宮城県沖地震に備えて、県内でも様々な防災活動や災害ボランティアに関する取り組みが行われるようになってきました。今月号の「こら・ぼ」では、これまでの防災活動の意味や効果と、新たな防災活動や防災に関わるボランティアの役割について考えたいと思います。

繰り返し訓練 することの意味

みなさんも幼稚園や小学校時代、毎回、防災訓練の中で地震発生の合図とともに机にもぐった経験はありますよね? さっと日本中の誰しもが、地震が起きたらまずはお互いの身を守ることを教わって来ました。我が家の娘(5歳)も、揺れと同時に誰よりも先にテーブルにもぐります。現に、過去の大地震では「最初の大きな揺れでコタツにもぐり、揺れが収まったので外に出たら、直後に余震が起きて自宅が全壊した」という話を聞きます。これは、第一に身の安全、第二に避難という行動が命を救い、無意識に行動に移されたものだと思います。小さなころから繰り返し訓練することで、慌てずに行動に移すことができたのは、日本の防災教育の賜物かもしれません。

防災活動の あらたな取り組み

しかし、災害はこれら予想される出来事をはるかに越えて私たちの身に降りかかってきました。例えば最近の水害では、予想をはるかに越えるスピードで大雨が降り、河川の水かさが増え土石流も起こります。避難勧告に従い自宅から避難所へ避難する途中に濁流に飲み込まれ命を落とす危険と察知し自宅の2階へ逃げ

て命が助かったというケースもあります。この例はわかりやすい極端なものかもしれませんが、このように災害には絶対という選択肢はなく、その時の臨機応変な判断が必要になります。通常行われる訓練のように決められたシナリオに沿って行動することは繰り返します。判断を迫られたときに「考える」行動ができるかを防災活動に盛り込まなくてはなりません。

最近の防災活動ではバリエーションにとんだ様々な取り組みが目につくようになってきました。例えば、運動会のプログラムに災害時に役立つ借物競争をしたり、子ども会歩きをあわせて防災マップづくりをおこなったり、オリジナルの非常食コンテストを開いたり、これまでの防災訓練のように単に繰り返すだけでなく、プログラムの各場面においてどうすべきかを考える要素が含まれています。この、防災活動の中の「考える」という要素がマニュアルにない出来事が起こる災害時にどうすべきかを考える行動することにつながるのではないのでしょうか。

NPPOの取り組み事例 「まちづくりNPPO」 「ばんき宮城研究所」

防災訓練は、災害直後地域の助け合いが必要なことから

町内会などの自治組織が実施することが多いですが、最近もNPPO主催による防災活動も少しくつりNPPOげんき宮城研究所では、防災活動の切り口を「情報」にあて研修会を実施しています。災害時には、テレビやラジオなどマスコミが流す情報、行政からの情報、地域住民からの情報など多種多様な情報が流れ、必要な情報を得て行動することが求められます。場合によってはこの情報を活かして行動することが生死を分けてしまうこともあるかもしれません。研修会では①過去の被災地での実態を情報として捉え、②災害時の行動を選択し議論を交わすカードゲームクロスロードを使い、様々な情報を受け入れながら遭遇する事態に答えを出し、最後に、③大津波から村人全員の命を救い人命の尊さ、互助の精神を伝えた実話「稲むらの火」のDVD紙芝居で歴史的な教訓を得ます。参加された方々は災害時の自分に置き換えて考え、各種の情報を入力

防災訓練に地域ボランティア組織やNPPOが役割を担い住民と連携




稲むらの火のDVD紙芝居

することも大切ですが、考える防災活動をNPPOが担うことも出来るのではないのでしょうか。まちづくりNPPOげんき宮城研究所の取り組みは、今までにない防災活動の一步を踏み出すきっかけを作る機会を提供してくれていると言えます。

防災活動というと、消火訓練や炊き出し、避難訓練などを想像してしまいがちです。とても大事な活動ですが、実際の災害は発災直後の対応だけでなく、避難所生活などの復旧時期や仮設住宅生活などの復興時期まで続き、そこでは常に状況を踏まえて答えを選択しなくてはなりません。あらかじめ答えがあるものではなく、その時「考えて」生み出さなくてはならないものです。皆さんの日ごろの防災活動にちよっと工夫を加えて「考える」場面を盛り込んでみれば、きっと災害時に役に立つのではないのでしょうか。

詳細はP9へ 2/11災害ボランティアシンポジウム開催!!


宮城県社会福祉協議会
みやぎボランティア総合センター

〒980-0014 仙台市青葉区本町3-7-4 宮城県社会福祉会館内1F
 TEL 022-222-0010 FAX 022-217-9388
 URL <http://www.miyagi-sfk.net>
 e-mail g040@miyagi-sfk.net

【備えあれば・・・】

居安思危(こあんしき)

居安思危:安きに居りて危きを思う
思則有備:思えばすなわち備えあり
有備無患:備えあれば患いなし

出典:「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」
春秋:孔子の編集の史書。前480年頃編集の年代記

【入会案内】

	NPO げんき宮城	みちのく八雲会
代表者	代表理事 西城 雄生	主宰 門間 光紀
入会金	1,000円	1,000円
年会費	一般	2,000円
	賛助	5,000円
	団体企業	10,000円
振込先	仙台銀行 気仙沼支店 (普通)No.2457201 (名義)まちづくりNPO げんき宮城研究所 ダイヒョウリジ サイジョウ タケオ 代表理事 西城 雄生	ゆうちょ銀行 (記号)18160 (番号)9867461 (名義)みちのく八雲会 他金融機関からの振込 (店名)八一八 (店番)818 (普通)No.0986746

人から人へ、心をつなぐ

地域と時空を超えて、グローバルな視野で
(地域に根ざしつつ世界を見る)
住み良い地域社会と新たな文化を創造する

まちづくりNPOげんき宮城研究所

〒983-0851 宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5 みやぎNPOプラザ内
レターケースNo. 7
☎ 090-7526-7826(門間) FAX 022-256-0533
E-mail: genkimiyagi@yahoo.co.jp

みちのく八雲会

まちづくりNPOげんき宮城研究所 気付